

消 防 学 校 だ よ り

令和8年 6 月号

発行年月日 令和8年7月1日
発 行 宮 崎 県 消 防 学 校

初任科 N B C 災害対応

6月3日（水）、特殊災害の授業においてNBC災害対応について学びました。暴露者の救出等を行う消防隊員自身の防護が大切であり、目に見えない物質等が体表面や粘膜に触れないように細心の注意を払う重要性を学びました。



救助科（入校）

6月15日（月）、第37期救助科に県内消防局・消防本部から17名が入校しました。

これから7月10日（金）までの約1ヶ月間、交通・山岳・火災救助やUSAR訓練など、救助業務に必要な専門知識と高度な技術の習得に挑みます。極限の訓練を通じて自身の限界に挑戦するとともに、同期生との絆を深める重要な期間となります。県民の安全と命を守る「救助のプロフェッショナル」を目指し、志高き隊員たちの挑戦が始まります。



初任科（プール清掃）

6月17日（水）、水難救助訓練を前にプールの清掃を実施しました。1年の汚れをきれいに落とし訓練に備えました。



救助科(玄関ドアの構造と開放要領・ガラスの種類と強度)

6月18日（木）、株式会社LIXILの藤井潤一氏、日比野哲氏を講師に招き、救助活動の初動となる「ドア開放」について専門的な実技訓練を実施しました。サッシドアやガラスの特性といった基礎知識を習得した上で、現場で遭遇する様々な状況を想定した12種類の開放要領を学びました。



救助科（シャッターの構造と開放要領）

6月19日（金）、文化シャッターサービス株式会社から講師を招き、シャッター開放要領を実施しました。使用するエンジンカッターのブレードで切断後の作業が変わってくる事など、開放に必要な技術、知識を習得できました。



救助科（チェーンソー取扱い訓練）

6月22日（月）、宮崎機械の戸郷洋逸氏を講師に招き、チェーンソーの構造や整備を学びました。さらに校外の山林へ出向し、宮崎中央森林組合の指導のもと実科訓練を実施。チェーンソーの基本操作から鋸断、さらには伐倒に至るまで、救助現場で不可欠な切断・破壊技術を習得し、厳しい環境下での即戦力となるための練度を高めました。



救助科（外傷アプローチ・交通救助）

6月24日（水）、都城市消防局特別救助隊を講師に招き、交通災害救助訓練を実施しました。

交通救助では、対象車両の種別、状態を見て迅速に活動方針を決定し、救出活動と同時に危険排除を実施する事が求められるため、様々な事案を想定し訓練を実施しました。



救助科（電気事故対策）

6月25日（木）、九州電力送配電株式会社宮崎配電所を講師に招き、電気事故対策訓練を実施しました。電気災害の基礎知識を座学にて学んだ後、実際に電柱を使用し訓練を行い、柱上での救出の要領を習得しました。



救助科（火災救助訓練）

6月25日（木）、火災救助訓練では、まず火災性状の理解を深める座学を行い、燃焼メカニズムを科学的に分析しました。その後、濃煙熱気下を想定した屋内進入訓練へと移行。的確な注水技術により火点を制圧し、要救助者を迅速に検索・救出する一連の流れを反復しました。過酷な現場で確実な判断と行動ができるよう、隊員間の連携強化と高度な戦術遂行能力の習得に努めました。



初任科（鹿児島県消防学校初任科生との交流会）

6月26日（金）、鹿児島県消防学校の初任科生との交流会を開催しました。本会は、日頃の訓練で培った知識・技術・体力の成果を競い合うとともに、両校の親睦と連携強化を目的に実施されました。

競技種目には大縄跳びや大綱引き、ぶら下がり、ホースバトンリレーを行いました。各チームが勝利を目指して熱戦を繰り広げる中で、学生たちは互いの士気を高め合いました。また、訓練の悩みや現場活動への思いなど、消防士を志す者同士で活発に情報交換を行い、同期の絆を深く結びました。この交流で得た刺激と連帯感を糧に、両校の学生は地域を守る次代のプロフェッショナルとして、さらなる成長を誓い合いました。



救助科（水難救助訓練）

6月29日（月）、30日（火）に水難救助訓練を行いました。まず本校プールにてシュノーケリングやフィンワーク等の基礎技術を磨き、水面での移動や進入・脱出要領を段階的に習得しました。2日目は、グリーントダイバーズのマスターインストラクター・福田道喜氏を招き、宮崎海洋高校の潜水プールにて本格的な潜水訓練を実施しました。水中の視界不良や水圧といった過酷な環境下で、的確に要救助者を発見し、安全かつ迅速に救出するための高度な救助技術と精神力を養いました。



初任科（車両破壊訓練）

6月30日（火）、帝国繊維株式会社から松藤朝日子氏を講師に招き、車両破壊訓練を実施しました。座学では車両構造の理解に加え、大型油圧式救助器具等の高度救助資機材取扱い方法について学習しました。

実技では実際に車両を活用し、ドアの強制開放から車体拡張、ルーフの切断・除去までの一連の手順を学びました。複雑に歪んだ車内から、いかに迅速かつ安全に要救助者を救出するか、現場活動の最適解を追求しました。緊迫した状況下でも確実に要救助者を救出する救助隊員として不可欠な専門的破壊技術と安全管理能力を習得しました。



7月の主な行事

○救助科 7月10日（金）修了式

宮崎県消防学校

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shoboh-s@pref.miyazaki.lg.jp